

練馬区子ども読書活動推進会議(第10期第一回)要録

日時：令和元年11月28日（木） 午後3時20分から5時5分まで

場所：光が丘図書館 第二会議室

●参加者

○委員（敬称略）

林、木村、工藤、埴、橋爪、関根、荒井、生田、乾、大山、立花

○事務局

清水光が丘図書館長、赤沼子供事業統括係長、同係 渡邊、新井

●議事等

○練馬区子ども読書活動推進会議第10期座長・副座長の互選

○練馬区子ども読書活動推進会議第10期委員について

○第四次練馬区子ども読書活動推進計画素案について

●配付資料

資料1 練馬区子ども読書活動推進会議（第10期）委員名簿

資料2 練馬区子ども読書活動推進会議設置要綱

資料3 練馬区子ども読書活動推進会議の概要について

資料4 第四次練馬区子ども読書活動推進計画素案

●会議要録

○事務局

ただいまより、第10期の第一回練馬区子ども読書活動推進会議を開催させていただきます。わたくしは、事務局の教育振興部光が丘図書館長の清水と申します。よろしくお願いいたします。本日は、第10期委員の一回目の会議となりますので、座長および副座長の選出が終わるまでは、事務局が進行させていただきたいと存じます。初めに、事務局の職員の自己紹介をいたします。

（事務局職員自己紹介）

最初に、報告いたします。本日の欠席委員は古山委員と岡田委員の2名です。また、傍聴の方は、いらっしゃいません。

○事務局

それでは、次第２の「練馬区子ども読書活動推進会議第10期座長・副座長の互選」に移ります。初めに、座長の選出を行いたいと思います。立候補、もしくは推薦されたい方はいらっしゃいますでしょうか。

（委員の推薦で、林委員が座長に選出された。）

（座長の推薦で、木村委員、工藤委員が副座長に選出された。）

今後の進行については林座長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。

○座長

ただいま座長に選出されました、林（リム）と申します。私はアメリカ人です。東京生まれ東京育ちですが、25年ほどアメリカのニューヨークにいました。三年前に武蔵大学で准教授につき、単身赴任で日本に戻りました。子どもから大人まで本が読まれなくなっていることは、地球規模の問題と思っています。練馬区の取組を通して、読書推進に努めていきたいと思いますので、至らぬこともあるかと思いますが、何卒よろしくお願いいたします。

次に、次第３の「練馬区子ども読書活動推進会議第10期委員について」に移ります。事務局が準備した資料１の名簿に沿って、簡単に自己紹介をいただければと思います。

（副座長および委員の自己紹介）

○座長

ありがとうございました。改めて、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、次第４「議事」に移ります。当会議は、資料２にあります区の要綱に基づき設置されています。この会議の役割等も含めて概要を事務局から説明をお願いします。

（事務局説明）

○座長

ありがとうございました。事務局のご説明のとおり、会議および会議録は公開としますがよろしいでしょうか。

（異議なし）

第９期からの再任の委員もいらっしゃいますが、今期は第９期同様、委嘱期間が２年となります。長丁場となりますが、各委員の皆様よろしくお願いいたします。

つぎに、「第四次練馬区子ども読書活動推進計画（素案）について」に移ります。事務局資料の説明をお願いします。

（事務局説明）

○座長

ありがとうございました。

第四次計画素案のP 2のとおり、本会議では、計画を着実に推進していくため、個別の取組状況や進捗状況について意見交換を行い、問題点や課題を検証していきます。今後、練馬区の子どもの読書活動の推進は、こちらの計画を中心に進めていくことになるかと思えます。ただいまの事務局の説明や計画書の内容等について、ご質問等ございましたらお願いします。

○委員

第四次計画は、第三次を振り返った上で、P 7にある課題をもとに、作られたという認識でよいでしょうか？

○事務局

この計画は課題等をもとに作っておりますが、基本的に第三次計画を踏襲しております。練馬区は、子どもの発達段階に応じた計画を作っており、発達段階に合わせて目標を設定しております。目標の作りに関しては第三次からの変更はございません。P 9～10をもう一度ご覧ください。目標1～3は年代に応じて、目標4は目標1～3の中で支援を必要とする子どもへの活動です。目標5は基盤づくりとしています。この目標5は第三次と文言が変わっております。第三次は「関係団体等との連携」という文言でしたが、これは「内容」ではないかという意見があり、第四次は目標の文言を変えました。また、目標3は「高校生等」という文言を使っていましたが、学校に行かれていないお子さんも含めて「高校年代」に変えました。

また、第四次では指標を増やしております。その見方として、第三次は各目標の中に必ずしも指標があるわけではないが、計画を進めていくには、取れる指標はきちんと押さえたいので、第四次ではそれぞれの目標に主要指標を設定しました。これまでの指標に加え、新たな指標を取り込んでいます。

○委員

「貸出冊数」を指標に入れていますが、目標はできるだけ幅広い人たちに読んでもらいたいのであれば、「延べ人数」で取った方がよいではないか？また、他の自治体との比較は

されているかどうかを伺いたいです。いかがでしょうか？

○事務局

まず「冊数」が指標になっていることに関して、「冊数」でよいかどうかは第9期の推進会議や庁内の計画策定検討委員会でも議題に上がりました。一番把握しやすい、わかりやすいことやこれまで取ってきた数字の推移を引き続き把握していきたいということで、「冊数」を取っております。ただ、これまでの数字はどうしても区立図書館の貸出冊数、もしくは学校への団体貸出の貸出冊数しか捉えられていませんでしたが、昨年度から学校図書館蔵書管理システムを入れたことで、今後学校図書館の貸出冊数等の数字を取れるようになります。

次に、他の自治体との比較については、持ち帰って確認させていただきます。他の自治体でも同じような計画を作っています。どちらかという指標は冊数が多いと認識しております。

○事務局

年齢別でも数字を取りたかったのですが、0歳～おおむね18歳の利用人数が取りにくいシステムになっております。対応するには、システムリプレイス時に、統計に関して見直しを依頼することになるかと思います。

○委員

「人数」が大切なのであれば、参考指標で取り入れてもよいかと思います。

○副座長

指標の「学校図書館での貸出冊数」について、学校が常に図書館に報告することになるでしょうか？

○事務局

学校から報告してもらわなくても統計を取ることができます。区立小中学校の図書室でシステムを使って貸し出すので、冊数等のデータが残ります。月単位でも年間単位でも抽出することができます。

○副座長

開放図書館の時間帯で借りる冊数と授業で借りた冊数が両方ともわかるものでしょうか？

○事務局

両方とも貸出冊数を把握できるよう、担当部署と調整しているところです。

○副座長

学校は図書館からの団体貸出を受けることができますが、団体貸出の本を子どもたちに貸出しているのでしょうか？

○委員

学級文庫のようなものなどは、クラスによって違うが、管理の問題で基本的に持ち帰らないようにしています。

○副座長

今のシステムのお話ですが、開放図書館が入っている学校と入っていない学校があります。開放図書館が入っている学校の方が、貸出冊数が多いと思われるので、区で集計された数字が不平等になるのではないかと？この数字は公表されるのでしょうか？

○事務局

この冊数の取り方についてですが、第三次では図書館の貸出冊数しか載せていなかったものです。読書活動の推進の目的は何かという点で考えた場合、本は図書館だけではなく、家庭や学校でも読まれています。どこで、誰が、ではなく、読まれる本の数字ができるだけ取れば良いという考えのもとで、小中学校での貸出数を指標に入れることにしました。これはシステムを入れることで、今までわからなかった冊数を新たに指標として載せることに、意味があります。各学校でランキングするものではありませんし、学校別に公表する予定はありません。

○座長

この点に関して、他の自治体との比較はどのようなものなのでしょうか？

○事務局

図書館の貸出冊数は、各自治体は毎年要覧を出しているので、把握ができます。学校図書館については、システムを入れることで初めて把握できるようになりました。もともとなるようなデータをまだ持っていないので、これから考える必要があるかと思います。

○委員

区がデータを持っていることはすごく大事なことだと思います。

○座長

他に質問がございますか？

○委員

第四次の素案が良い形でまとまっていて、今後の5年間で実施していきますが、時代が変わっていくと、この内容とは全然違った話も出てくるかと思いますが、引き続きこの会議で皆様とお話していければと思います。

○委員

前回に話し合ったことがきちんと内容に盛り込まれていて、これがどれだけ現実化されるかということも引き続き考えていけたらと思います。

○委員

家庭読書の「現実化」は難しく、手段を考えないといけないと思います。重点取組という形でわかりやすくまとめられているので、非常に良かったです。「家庭」は個別に対する取組になりますので、どのように進めていくかは疑問に思いました。

○座長

ありがとうございます。家庭でできないことはコミュニティが補うというお話もありますが、でも難しいところもありますね。

○副座長

この会議で議論していた時は、乳幼児は「家庭」がとても大事ということで、家庭への情報発信がきちんとこの計画に載っているので、よいと思いました。小学生は学校図書館が大事ということで、これも載っていますし、高校年代はSNSなどに目を向けなければいけないことも書かれているなど、話し合っていたことがきちんと入っていると思いました。これが実施されていくことが大事だと思います。これが進められて、目標が達成されていくといいなと思いました。

○委員

「家庭読書」に関しては、両親に押し付けていくような取組じゃなくて、両親自身の楽しみになるようなニュアンスの議論であつたらよいなと思います。

○副座長

第9期では、例えば、両親がどの本を読んであげたらいいかを悩んだ時に、図書館がお子さんにおすすめ本のリストが置いてあるとよいと思いました。またそれをホームページで見られるような環境が整備されていると、子どもが選ぶのではなく、親が関心を持つことが大事なので、そういう発信をしたらどうでしょうという意見が出ました。

○事務局

第三次計画の場合は、行っている事業を羅列しているような形でしたが、第四次では、実施している事業を情報発信して、知ってもらうことを目的に作っております。図書館だけではなく、保育所や幼稚園、児童館などいろいろな場所で行っている読書活動に繋がるものを色んな形で保護者に情報発信していきたいということです。これが起点になっています。

○座長

発言されていない委員からは、何かありますか？

○委員

学校図書館蔵書管理システムについて、今まで学校の読書傾向を把握するときは、貸出カードから把握していましたが、データベース化によって、個人の貸出記録は、学校は把握できるものでしょうか？

○事務局

システムとしてできますが、学校には制限をかけています。子どもであっても思想信条に関する個人情報保護の問題もあります。あくまで誰が何を読んでいるより、全体でどのような傾向で読まれているかを把握するものとして活用します。

○座長

ありがとうございます。他にご意見はありますか？

○委員

本屋の場合は、本を読まない子どもに何を読んだらいいかを薦めることが、中々難しいです。子どもが何かのきっかけによって、読書に繋がっていくことがあるといいと思います。

○委員

親に本の大切さ、面白さを伝えていくことが大事と感じました。幼稚園でも、子どもによみかせをすると、すごく本に興味を持つ子どもがいます。親にそのお話をすると、そこで「そうですか」と終わってしまう方もいます。子どもがせっかく本に興味を持ったので、家庭でも読ませてあげるいい方法を考えなければならないと思いました。

○座長

そうですね。保護者の方もすごくお忙しくて、時間と心の余裕がない方も大勢いらっしゃると思いますが、何かおすすめてできる方法を考えなければならないですね。

各委員のご意見が出そろったようですので、次に移ります。最後に「その他」について

です。事務局より何かございますか？

○事務局

次回の推進会議については、令和2年3月頃の開催を予定しています。日程および議題などにつきましては決まり次第、事務局よりご連絡いたします。また、こちらの会議については、図書館ホームページ等で会議録を公開します。よろしくお願いします。

○座長

本日の議題は以上となります。本日は第一回の会議ということで、この会議の役割や第四次子ども読書活動推進計画素案の概要等を把握することができたと思います。

第10期の第一回練馬区子ども読書活動推進会議を閉会いたします。本日はありがとうございました。

以上